

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
 ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
 #1 1回線送電線のため
 #2 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 #3 配電用変電所のため(高圧電源の系統連系の場合、N-1電制は対象外となります。)
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。なお、高圧系統に接続される電源の場合、N-1電制は対象外となります。
- (6) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (7) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (8) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開していません。
- (9) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量、運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	備考
							当該設備	上位系等考慮			
10	千歳線	66	2	222	111	熱容量	110	110	可	100	
11	千歳線	66	2	222	111	熱容量	109	109	可	100	
12	千歳線	66	2	222	111	熱容量	111	109	可	100	
13	島松支線	66	2	142	71	熱容量	72	72	可	71	
14	島松支線	66	2	142	71	熱容量	72	72	可	71	
16	青葉特高配電線	33	1	19	19	熱容量	19	17	不可 #1	—	※1
18	他社地中支線	66	1	—	—	熱容量	30	30	—	—	◇
19	輪厚支線	66	2	136	68	熱容量	66	66	可	68	
30	千歳線	66	2	284	147	熱容量	138	138	可	100	
32	千歳線	66	2	222	111	熱容量	89	89	可	100	
33	千歳線	66	2	222	111	熱容量	85	85	可	100	
34	千歳線	66	2	222	111	熱容量	82	82	可	100	
35	千歳線	66	2	155	94	熱容量	64	64	可	61	
37	千歳線	66	2	208	104	熱容量	58	58	可	100	
38	千歳線	66	2	222	111	熱容量	65	58	可	100	
39	千歳線	66	2	176	88	熱容量	76	58	可	88	
40	千歳線	66	2	176	88	熱容量	88	58	可	88	
41	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	23	23	—	—	◇
42	他社地中線	66	2	—	—	熱容量	22	22	—	—	◇
43	上長都地中支線	66	2	146	73	熱容量	77	77	可	73	
45	他社支線	66	2	—	—	熱容量	50	50	—	—	◇
46	他社支線	66	2	—	—	熱容量	49	49	—	—	◇
47	他社支線	66	2	—	—	熱容量	40	40	—	—	◇
48	日の出支線	66	2	168	84	熱容量	50	50	可	84	
50	他社支線	66	1	—	—	熱容量	10	10	—	—	◇
60	自社地中線	66	2	86	50	熱容量	52	52	可	36	
61	自社地中線	66	2	86	50	熱容量	49	49	可	36	
62	自社地中線	66	2	86	50	熱容量	45	45	可	36	
64	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	31	31	—	—	◇
65	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	28	28	—	—	◇
70	北広島線	66	2	182	91	熱容量	95	95	可	91	

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮			
1	恵庭変電所	187	66	2	300	150	熱容量	147	147	可	100	
15	島松変電所	66	6.6	3	37	22	熱容量	7	7	不可 #3	—	※2
		66	33	1	15	15	熱容量	17	17	不可 #2	—	※1
17	青葉配電塔	33	6.6	1	15	15	熱容量	13	13	不可 #3	—	※1
20	輪厚変電所	66	6.6	1	15	15	熱容量	9	9	不可 #3	—	※1
31	恵南変電所	66	6.6	3	50	30	熱容量	15	15	不可 #3	—	※2
36	千歳変電所	66	6.6	3	45	30	熱容量	15	15	不可 #3	—	※2
44	上長都変電所	66	6.6	2	30	15	熱容量	14	14	不可 #3	—	
49	日の出変電所	66	6.6	1	20	20	熱容量	13	13	不可 #3	—	※1
63	自社変電所	66	6.6	2	30	15	熱容量	8	8	不可 #3	—	
71	北広島変電所	66	6.6	2	20	10	熱容量	9	9	不可 #3	—	